

6U-02 カタカナ語彙学習のための教育支援システム

金城ふみ子

東京国際大学経済学部

鈴木 健司

東京国際大学人間社会学部

はじめに

カタカナ語は、留学生にとって漢字と共にやっかいな存在である。大学の教務関係書類や教科書・講義での使用頻度も高く、特に英語に弱い学生には、独習もままならず学習上の障害になっている。そこで従来の印刷物による練習より学習意欲を喚起し、自分のペースで楽しみつつ習得できるCAIを試作した。モニター評価、学習効果について報告する。

1. 学習支援の必要性

1. 1 カタカナ語彙学習の必要性

カタカナ語は、その是非を超えて日常生活の中で多用されている。大学の教務関係書類や教科書・講義での使用頻度も高い。東京国際大学で新入生にオリエンテーションで渡される7種類の冊子では、1300以上のカタカナ語（異なり単位語）が使われている。（1998年金城調べ）

留学生にとってカタカナ語彙の学習は難しい。東京国際大学の留学生を対象に行ったアンケートでは留学生がカタカナ語彙の学習を困難と感じている原因には、語源である外国語（主に英語）の未学習、数の多さ、和語の混在、無知を知られたくないという自尊心等がある。

1. 2 日本語教育での指導状況

日本語教育におけるカタカナ語彙指導については、学生アンケートの結果では、留学生

別科など大学入学前の所属日本語教育機関で特別な指導は受けていないという回答が多い。また、カタカナ語が分からないときは、自分で辞書を使ったりして勉強するか、飛ばし読みするという回答から、カタカナ語の学習は学生個人に任せられている実態が伺える。

ところが、個人で勉強しようとしても学部生のニーズに応えられる教材は少ない。現在市販されているカタカナ語彙学習教材は、導入練習用の出版物が主で、中級以上のカタカナ語彙拡充を目標としたものは少ない。カタカナ語辞典も豊富であるが、用例がないため使いづらい面がある。CAI教材も、英語圏の学習者を対象にした初級用で、学部アジア留学生の教材としては不向きである。

以上、カタカナ語に対する心理的バリアを形成している抵抗感を取り除き、専門科目の学習を容易にするために学部学生用の楽しい自習教材としてのCAIの開発が必要である。

2. 試作CAIの特徴

試作CAIは、正誤の判定が一問ずつ即座に行われ、先生が付いていなくても学習者が一人で問題を次々と練習できる独習形式である。間違えた場合、同じ問題に3回挑戦できる。

主体的学習を促すため、個人の利用記録がとれるようにした。成績は、練習した問題に対してのみ正解比率を表示し、印刷も可能で、学習者が自ら学習管理できる。

コンピュータに不慣れでも楽しく容易に使えるよう入力の手軽さを始め以下の項目につい

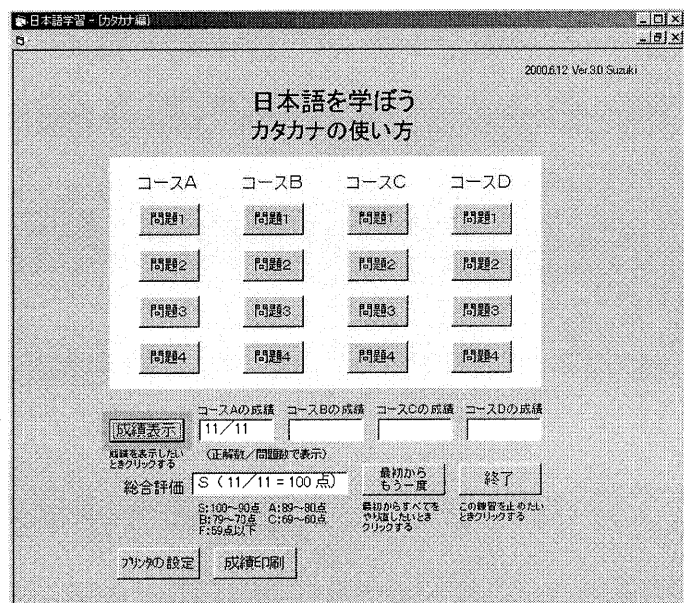


図1 メニュー画面

てインタフェースのよさを追求した。(図1)

- レイアウト (明るく楽しい色彩・選択肢の見易さ・機能的なボタン位置など)
- 表示 (練習法の明解な指示・回答直後のヒントと正解・成績など)
- 問題の内容 (表記の確認・言い換え表現・意味の認知・運用練習など)

問題は、正誤・4択・語群からの選択・穴埋め(自由記入)の4種類で、簡単な正誤識別から、より高度な識別、言い換え、運用と段階を踏んでカタカナ語が習得できる。(図2)

また、プログラムを変更せずに問題を容易に追加作成できるように、問題編集ソフトも開発した。各コースの問題は、テキスト形式のファイルで構成され、試作CAIは実行時に、このファイルから問題を読み込み、学習者に表示している。そこで、問題編集ソフトでは、ファイルの編集が容易に行えるインタフェースを提供することにより、教師が簡単に問題文や語彙を追加できるようにした。

3. 学習効果についての評価

試作CAIの練習問題を留学生被験者(新入生)に評価してもらった。モニター実験中は、

練習開始時の操作の確認や問題が生じたとき以外は基本的に被験者一人で自由に行ってもらい、実験者は離れたところから観察した。

モニタリング中の被験者は、笑ったり独り言を言ったり、概して楽しそうであった。これには、事前アンケートでコンピュータ使用のカタカナ練習に懐疑的だった者も含まれる。

実験終了後、問題を最後まで終了したしなに関わらず、アンケートに答えてもらった。その結果、全員が肯定的な評価を出している。

コンピュータによる学習は、一見「かっこよく」、いかにも勉強したという感じを与えるが、学習効率を考えると同じ内容をプリントで行った方がよいという批判が一般的にある。

しかし、モニター実験の結果から①「楽しく」学習できた、②もっと利用したい、友達にも利用を勧めたいという感想が得られ、少なくともカタカナ語彙に対する実験前の拒絶感の緩和、学習意欲の高揚効果が認められた。

4. 今後の課題

今後の課題としては、このCAIを使用した練習教材の種類と量の拡充及び文章中のカタカナ語彙学習ができる読解練習の開発等がある。

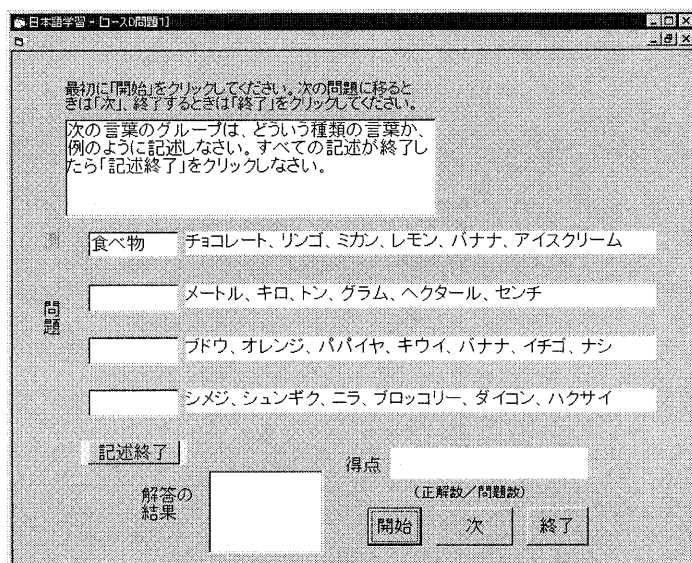


図2 意味の識別問題